

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	14-8-1	デジタル・ディバイドの解消 ～情報格差の壁を超える～	東京都 目黒区
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	デジタルデビュー～スマホを使いこなし、輝く第二の人生～		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	孫セラピスト		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	5名		
代表者（公開）	小林未依		
メンバー（公開）	桜井万里江 野崎寧々 齋藤峻輔 ほか一名		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院のCOG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

シニア世代のデジタル・デバイドの解消 ～情報格差の壁を超える～

<この課題解決のために「何を」やるアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

【アイデアの内容】

目黒区と連携して行うシニア世代を対象としたスマホ教室

～スマホを使いこなす輝く第二の人生・誰一人取り残さない人に優しいデジタル化の実現へ～

【目的】

2021年9月にデジタル庁が設置されるなど、国をあげて社会全体のデジタル化が進められる一方で、デジタルに不慣れな人たちが取り残されている傾向にあり、特に高齢者等（以下、シニア世代という）のデジタル格差は深刻な問題である。例えば、スマートフォンを活用できていないシニア世代は、そうでないシニア世代に比べて、ワクチンの予約が困難だったり、友達との連絡が減り社会的孤独になったりすることが分かっている。また、これらの影響は新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛の影響を受け、より顕著になっている。この深刻な状況を解決すべく、私たちはデジタル格差の解消とデジタルリテラシーの向上を目標に、シニア世代を対象にしたスマホ教室を開催する。

開催する講座は受講者が理解しやすいように、希望者のレベルに合うよう複数用意し、私たち孫セラピストが支援員として適切なサポートを実施する。また想定している講座の内容としては、スマートフォンを用いて電話をかけたり、スマートフォンにアプリをダウンロードするといったような基本操作だけでなく、オンラインによる行政手続きがしやすくなるマイナンバーカードの申請や、ポイント還元等により経済的な生活を送ることができるようになるスマートフォンでの決済方法など、生活にスマートフォンを活用できるようになる内容が含まれている。そしてこのスマホ教室を通し、シニア世代がスマートフォンを利用し、デジタル格差をなくし、精神的に充足した生活を送る支援を実施する。

【カリキュラム案】

ブロンズコースからゴールドコースまでの3つのコースを用意する。1つの講座にかかる時間は約1-2時間程度を目安とし、シニア世代の負担にならないよう十分な時間を確保して実施する。

ブロンズコース（初級）

スマートフォンの基本操作について学ぶコース

- ① 電源の入れ方・ボタン操作等
- ② 電話のかけ方
- ③ アプリのダウンロード方法（実際にコミュニケーションツール（LINE、Zoom等）をダウンロードして試してみる）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

④ インターネットの使い方、地図アプリの使い方

※④のインターネットの使い方までマスターするとシルバーコースに進級可能

マイナンバーの申請を希望する場合→シルバーコース①

マイナンバーの申請を希望しない場合→シルバーコース②

シルバーコース①（中級）

マイナンバーカードの申請方法を行うコース

※マイナンバーカードの申請をマスターするとゴールドコースに進級可能

シルバーコース②（中級）

スマホ決済について学ぶコース（スマホ決済の種類・設定方法・使い方について）

※スマホ決済の仕組みについてマスターするとゴールドコースに進級可能

ゴールドコース（上級）

復習を兼ねて受講者同士で基本講座を教え合うコース

ブロンズコース（初級）の①～③で習った内容を、受講者と教え合うことで、スマートフォンを実践的に使う機会を作り、実生活においても友人に教えることができる状態を目指す。

【運営方法】

・支援員について：実施会場において孫セラピストメンバーが講師となり、受講者に対して講習を実施する。また講習の最中は、1コマに講師が必ず2名以上いる状態を確保し、受講者数に応じて講師の他に受講者の操作等を補助するアシスタントを適宜配置し、サポートが適切に行き渡る体制で講習を実施する。また、総務省によって2020年度から推進されている「デジタル活用支援員推進事業」によって行われているデジタル活用支援員研修に参加した人が講師となることを想定している。

・講習会の実施場所：目黒区内の公民館などを想定。

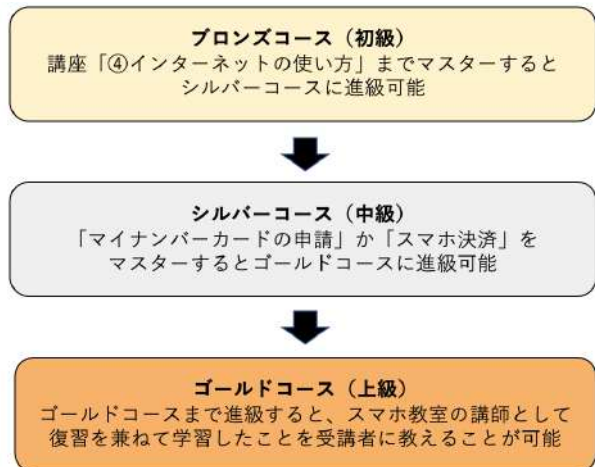
・実施時間：1講座あたり、質疑応答への対応を含めて2時間程度実施する。

・取扱講座等：講習会で取り扱うことのできる講座はスマートフォンの使い方やスマートフォンを用いた行政手続、サービスの利用方法についてなどである。

・受講者の要件：各講座に設定されている達成すべきゴールに照らし合わせ、それを達成することのできるシニア世代を対象とする。

【今後の展望】

1回の講座だけで終了することなく継続的にスマホ教室を実施する。また定期開催することで一度参加した方が何度も足を運べる形にする。そして何度もスマホ教室に参加することで、参加者同士でスマートフォンの使い方を教え合い新しい人間関係を築ききっかけづくりをする。



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

【提案の背景】

近年、新型コロナウイルス感染症の影響により、移動に制限がかかっていたり、自主的に外出を控える傾向が続いている。この傾向はアフターコロナでも、一定程度継続することが予想されており、新たなパンデミックが発生した際にも同様の事態が起こり得ることが考えられる。こうした中で、コミュニケーション不足等により様々な問題が起きている。コロナ禍においても、**人とのコミュニケーションを維持し、精神的に充足した生活を送る**ことが望ましい。

情報通信技術が発達し、生活のデジタル化が進む今日、インターネットは非常に重要なコミュニケーションツールである。しかし、**デジタルに不慣れな人たちは取り残され、「デジタル格差」が拡大**している。こうした現状に対し総務省では、厚生労働省と共に、ICT を活用し、年齢、性別、障害の有無、国籍等に関わりなく、誰もが多様な価値観やライフスタイルを持ちつつ豊かな人生を享受できる共生社会の実現推進に向けた方策等について検討を行うため「デジタル活用共生社会実現会議」を開催し、平成 31 年 4 月に報告書を公表している。また、政府においては「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」(令和 2 年 12 月 25 日閣議決定)において、「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」をデジタル社会のビジョンとして掲げており、これにより「**誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化**」を進めることとし、社会全体のデジタル化が進められる中、**デジタル格差の解消に資するデジタル活用支援の重要性**がますます高まっている。さらに「デジタルガバメント実行計画」(令和 2 年 12 月 25 日閣議決定)の別添として取りまとめられた国・地方のデジタル化指針である「マイナンバー制度及び国と地方のデジタル基盤の抜本的な改善に向けて」(マイナンバー制度及び国と地方のデジタル基盤抜本改善ワーキンググループ策定)においても、デジタル格差の是正を図るため、また、国民の満足度を最大化するデジタル政府・デジタル社会の実現に当たって、国と地方のデジタル基盤の抜本的な改善を図ることが必要不可欠であるとしている。また、目黒区においても、「目黒区情報化推進計画」を平成 28 年 3 月に発表しており、デジタル格差への配慮を充実させる等の取り組みを実施する旨を発表し、区民全体の生活を豊かにすることを目指している。

そこで、孫セラピストは第二の人生を歩むシニア世代を対象に、人生を充実させるデバイスであるスマートフォンの使い方教室の開催することにより、**デジタル格差をなくし、精神的に充足した生活を送る支援を実施**する。

【デジタル・デバイドの現状について】

1. 60 代以降のスマートフォン利用実態

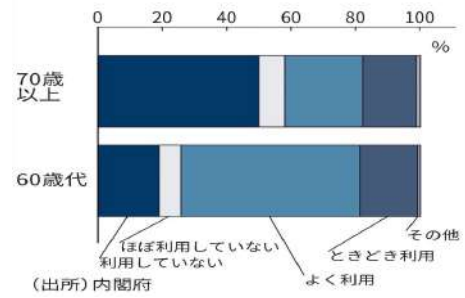
60 歳代の約 25%、70 歳以上の約 60%はスマートフォンを使っていない。

→スマートフォンを使えない、もしくは使っていない高齢者は**約 2,000 万人**（内閣府世論調査）

2. アイデアの説明 (公開)

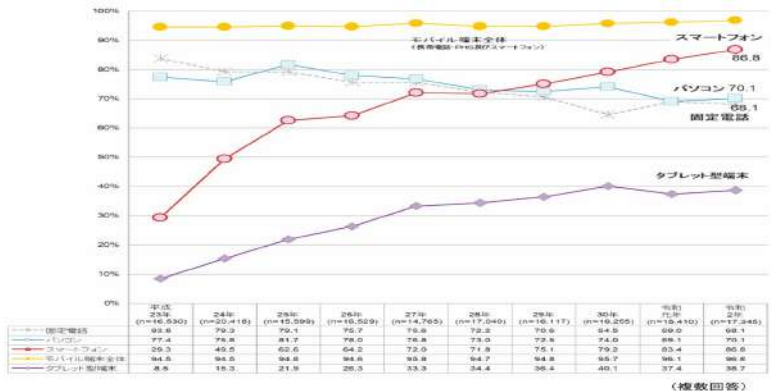
(2) アイデアの理由 (公開)

= 1.80 人に 1 人がスマートフォンを使うことができていない、もしくは使おうとしていない。
 スマートフォン操作による行政手続きが普及しつつあるが、高齢者との「デジタル格差」は残っている。



2. スマートフォンの普及率

スマートフォンの普及率は堅調に伸びていることから(86.8%)、スマートフォンが社会のインフラとなっていることがわかる。
 (総務省 通信利用動向調査)

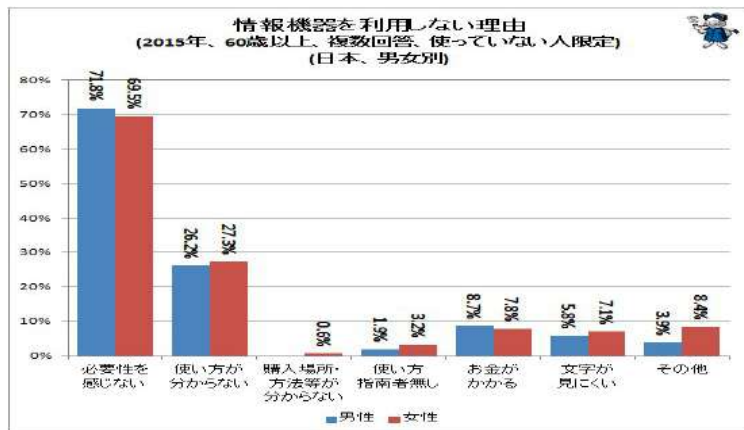


3. シニア世代がスマートフォンを使わない理由

・シニア世代がスマートフォンを利用しない理由として「必要性を感じない」が最も多く、他には「使い方がわからない」などが多く挙げられている。

(内閣府 国際比較調査)

→現在、新型コロナウイルス感染症の拡大以前より、スマートフォンを使ってみたく感じる機会は増えているため、スマートフォンの使い方がわからないシニア世代を対象にスマートフォンの普及率を高めたい。



ウィズコロナ時代における影響

ウィズコロナによって、外出の機会が減少する人が増えている。

→社会との接点、人との接触の減少 + 情報通信技術を利用する生活のデジタル化 (MMD 研究所調べ)

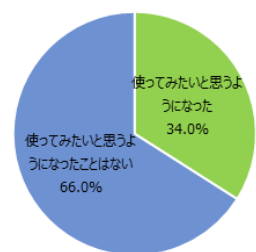
→ネットに不慣れな人たちが取り残され、「デジタル格差」や「社会的孤独」が深刻化 (例) ワクチン予約、LINE の利用

→シニア世代の 34.0%が新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、スマートフォンへの関心を高めている今、スマホ教室を行う狙い

・実践的に利用を促し関心を高めたい

新型コロナウイルス感染症の拡大でデジタル化が必然となった今、誰一人取り残さない社会をつくりたい

● 新型コロナウイルス拡大以降、スマートフォンを使ってみたく思うようになったか ※スマートフォンへ乗り換え検討者 (n=500)



→シニア世代のデジタルデビューでデジタル・ディバイドをなくす

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

・孫セラピスト（大学生を中心としたメンバー）



など

・目黒区役所の方々

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

・電通育英会に助成金申請中

電通育英会とは、大きく変革する社会に対応して新たな価値を創造する人材の育成を、さらに一歩進めるための事業として、2012 年度より、大学生を中心とした学生を対象とした人材育成に取り組む大学学内組織や NPO 法人等のキャリア形成支援、インターンシップ、ボランティア活動などに対する助成事業を行っている団体である。地域社会や学術研究、民間団体、行政・自治体、国際機関などの様々な組織で活躍する次世代の人材育成、特にリーダーの育成・リーダーシップ育成につながる活動の支援を行なっていることから私たち孫セラピストもスマホ教室実現を通し今後も活躍する人材になるべく応募した。

内訳

ヒト：保険料年間掛金

：スマホ教室人件費

：プロジェクト運営者人件費

モノ：機器費用（iPhone とアンドロイド）

：印刷製本費

3. 実現に至る時間軸のプロセス

現在進行中のものは水色の矢印、今後行うべきことは赤色の矢印としている。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月以降
目黒区（行政）と実現に向けて話し合い	→					
ニーズに合わせたカリキュラムガイドライン作成	→					
助成金の申し込み	→					
デジタル活用支援員への研修受講者応募			→			
スマホ教室講師研修					→	
HPにて広報					→	
スマホ教室実施						→

3月以降は、月1回を目安に継続的に実施していく予定である。

秋のアイデア考案段階における課題提示自治体との連携状況について、以下の質問にお答えください。
個別の回答は非公表ですが、統計データとして処理して公開することはあります。